

製品名: 切断型アグリカン (D369) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08947**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44kDa

抗原情報

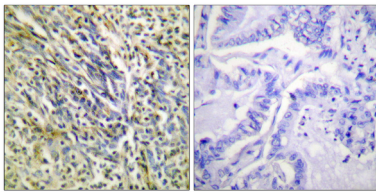
遺伝子名	ACAN
別名	ACAN; AGC1; CSPG1; MSK16; Aggrecan core protein; Cartilage-specific proteoglycan core protein; CSPCP; Chondroitin sulfate proteoglycan core protein 1; Chondroitin sulfate proteoglycan 1
遺伝子 ID	176.0
SwissProt ID	P16112
免疫原	抗血清はヒトアグリカン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 320-369

背景

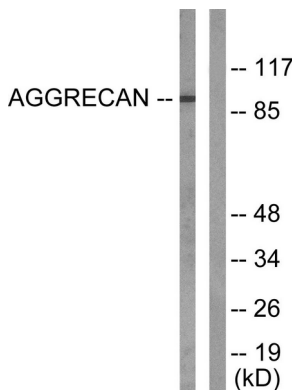
この遺伝子はアグリカン/バーシカンプロテオグリカンファミリーに属します。コードされているタンパク質は軟骨組織の細胞外マトリックスの不可欠な部分であり、軟骨における圧縮に耐えます。この遺伝子の変異は、骨格形成不全症や脊椎変性症に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるタンパク質アイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです、発達段階: 発達中の骨格全体の軟骨細胞で発現が検出されました。、疾患: ACAN の欠陥は、キンバリー型脊椎骨端線形成不全症 (SEDK) [MIM:608361]の原因です。脊椎骨端異形成症は、先天性軟骨異形成症の異質なグループであり、特に骨端および椎骨を侵します。常染色体優性 SEDK は、早期変形性関節症と関連しています。、ドメイン: 2つの球状ドメイン、G1 および G2 がプロテオグリカンの N 末端を構成し、もう1つの球状領域、G3 が C 末端を構成します。G1 にはリンクドドメインが含まれており、A、B、B'モチーフと呼ばれる3つのジスルフィド結合ループ構造で構成されています。G2 は G1 に類似しています。ケラタン硫酸 (KS) およびコンドロイチン硫酸 (CS) 付着ドメインは、G2 と G3 の間にあります。、機能: このプロテオグリカンは、軟骨組織の細胞外マトリックスの主成分です。このタンパク質の主な機能は、軟骨の圧縮に抵抗することです。これは、N 末端球状領域を介してヒアルロン酸に熱心に結合します。、オンライン情報: アグリカン、PTM: 主にコンドロイチン硫酸を含みますが、ケラタン硫酸鎖、N 結合型および O 結合型オリゴ糖も含まれています。ヒトの変形性関節症のあらゆる段階で、アグリカン断片が関節軟骨から滑液に放出されるのは、アグリカナーゼによる切断の結果です。、類似性: アグリカン/バーシカン プロテオグリカン ファミリーに属します。、類似性: C 型レクチン ドメインを 1 つ含みます。、類似性: EGF 様ドメインを 1 つ含みます。、類似性: Ig 様 V 型 (免疫グロブリン様) ドメインを 1 つ含みます。、類似性: Sushi (CCP/SCR) ドメインを 1 つ含みます。、類似性: リンク ドメインを 4 つ含みます。、サブユニット: FBLN1 と相互作用します。、組織特異性: 軟骨に限定されます。、

研究分野

画像データ



アグリカン (Cleaved-Asp369) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



エトポシド 25 μ M 60% 処理した Jurkat 細胞ライセートの Aggrecan (Cleaved-Asp369) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。